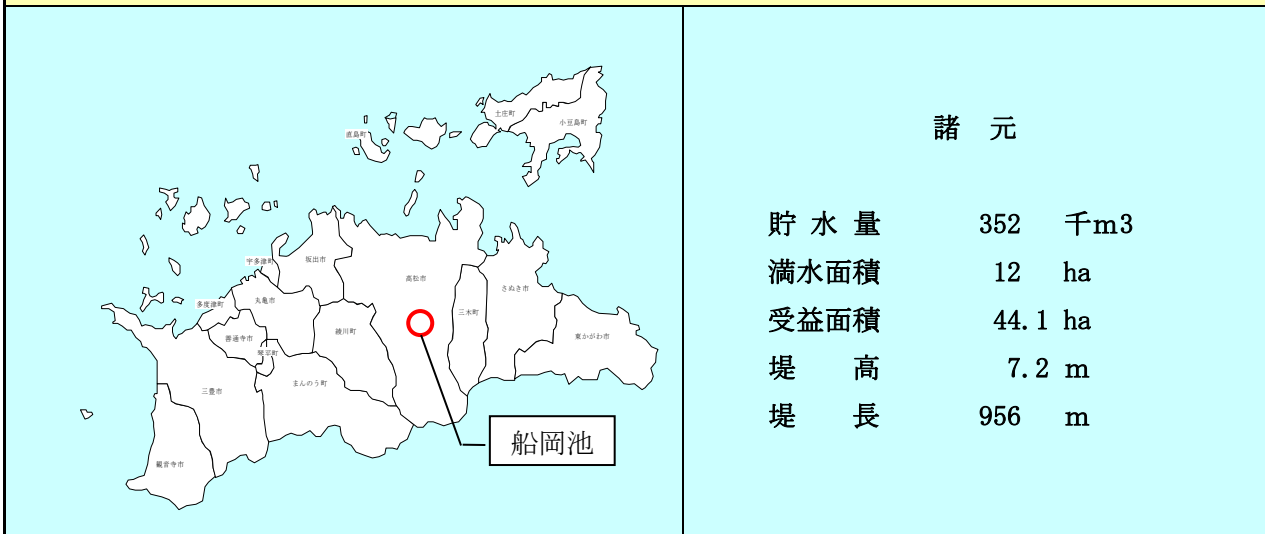


船岡池（ふなおかいけ）



高松市香川町に位置する船岡池は延宝元年（1673年）に築堤され、旧香川町大野・高松市寺井町・一宮町・鹿角町・三名町の平地農業地帯を受益としていました。しかし、渇水時には上流の寺井・神内寺地区だけが取水する「サンザイ」という水利慣行のため、最末端まで用水が届かず、下流域は香東川水系の伏流水を利用するなど水事情の厳しい土地柄でもあります。

このため、貞享元年（1684年）には行寺池を築くとともに船岡池の拡張工事を行い、次いで辻堂池を築きました。その後、渇水時に用水が届かない下流域の農民は大正11年（1922年）に船岡池の権利を放棄して行寺池・辻堂池へ加入しましたが、水不足は解消せず、水争いは絶えませんでした。昭和24年（1949年）には鹿角土地改良区を設立し、独自の水源として4か所の「さく井」を完成させました。

また、船岡池は船岡山の麓で噴き出していた4か所の^{ですい}出水を取り囲むように築堤されているため、「満水したらすぐ7、8合に減るが、3、4合になれば減らなくなる面白い池」との話があります。さらに、船岡池の左隣にある「^{うわなり}上成出水」は「船岡池の水位が下がれば出水の水位も下がる」と伝えられ、昔から船岡池の水位と連動していたようです。

現在では、周辺との調和に配慮して整備済みの「上成出水」とともに周辺住民の憩いの場となっております。



船岡池



上成出水